

L-グルタミン酸ナトリウム

Monosodium L-Glutamate

グルタミン酸ソーダ

$C_5H_8NNaO_4 \cdot H_2O$

分子量 187.13

Monosodium monohydrogen (2S)-2-aminopentanedioate monohydrate [J6106-04-3, 1 本和
物]

monosodium-(S)-1-aminopentanoic-4,3-dicarboxylate-mono-hydrate-1 本和 143-47-21

含 量 本品を乾燥物換算したものは、L-グルタミン酸ナトリウム ($C_5H_8NNaO_4 \cdot H_2O$)
99.0%以上を含む。

性 状 本品は、無～白色の柱状結晶又は白色の結晶性の粉末で、特異な味がある。

確認試験 (1) 本品の水溶液 (1→1,000) 5 ml にニンヒドリン溶液 (1→1,000) 1 ml
を加え、3 分間加熱するとき、液は、紫色を呈する。

(2) 本品は、ナトリウム塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 比旋光度 $[\alpha]_D^{20} = +24.8 \sim +25.3^\circ$ (10g, 塩酸 (1→5), 100ml ,
乾燥物換算)

(2) 溶状 無色, 澄明 (1.0g, 水10ml)

(3) 液性 pH6.7~7.2 (1.0g, 水20ml)

(4) 塩化物 Clとして0.041%以下 (0.30g, 比較液 0.01mol/l 塩酸0.35ml)

(5) 重金属 Pbとして10 μ g/g以下 (2.0g, 第1法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(6) ヒ素 As₂O₃として2.5 μ g/g以下 (0.80g, 第1法, 装置B)

乾燥減量 0.5%以下 (97~99℃, 5時間)

定量法 本品約0.15gを精密に量り、以下「DL-アラニン」の定量法を準用する。

0.1mol/l 過塩素酸液 1 ml = 9.356mg $C_5H_8NNaO_4 \cdot H_2O$

L-グルタミン酸マグネシウム
Monomagnesium Di-L-Glutamate

$C_{10}H_{16}N_2MgO_8 \cdot 4H_2O$

分子量 388.61

Monomagnesium bis[monohydrogen (2S)-2-aminopentanedioate] tetrahydrate

[129160-51-6] Monomagnesium bis[monohydrogen (2S)-2-aminopentanedioate] tetrahydrate

含 量 本品を無水物換算したものは、L-グルタミン酸マグネシウム ($C_{10}H_{16}N_2MgO_8$ = 316.55) 95.0~105.0%を含む。

性 状 本品は、無~白色の柱状結晶又は白色の結晶で、特異な味がある。

確認試験 (1) 本品の水溶液 (1→1,000) 5 mlにニンヒドリン溶液 (1→1,000) 1 mlを加え、3分間加熱するとき、液は、紫色を呈する。

(2) 本品は、マグネシウム塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 比旋光度 $[\alpha]_D^{20} = +28.8 \sim +30.7^\circ$ (10g, 塩酸 (1→4), 100ml, 無水物換算)

(2) 溶状 無色, ほとんど澄明 (1.0g, 水10ml)

(3) 液性 pH6.5~7.5 (1.0g, 水10ml)

(4) 塩化物 Clとして0.10%以下 (0.070g, 比較液 0.01mol/l塩酸0.20ml)

(5) 重金属 Pbとして10 μ g/g以下 (2.0g, 第1法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(6) ヒ素 As₂O₃として2.5 μ g/g以下 (0.80g, 第1法, 装置B)

水 分 24%以下 (0.2g, 直接滴定)

定量法 本品約0.2gを精密に量り、水約50mlを加えて溶かし、アンモニア・塩化アンモニウム緩衝液 (pH10.7) 約2mlを加え、0.02mol/l EDTA溶液で滴定する (指示薬 エリオクロムブラック T 試液3滴)。終点は、液の赤色が青色に変わるときとする。別に空試験を行い補正し、更に無水物換算を行う。

0.02mol/l EDTA溶液 1 ml = 6.331mg $C_{10}H_{16}N_2MgO_8$

クロロフィル

Chlorophyll

定 義 本品は、緑色植物より得られた、クロロフィル類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。

色 価 本品の色価 ($E_{1\%}^{1cm}$) は600以上で、その表示量の90~110%を含む。

性 状 本品は、緑~暗緑色の粉末、塊、ペースト又は液体で、わずかに特異なおいがある。

- 確認試験 (1) 本品の表示量から、色価600に換算して1gに相当する量を取り、ヘキサン100mlを加えて溶かした液は、緑色を呈し、塩酸0.5mlを加えて振り混ぜるとき、液の色は帯緑黄色に変わる。
- (2) 本品の表示量から、色価600に換算して1gに相当する量を取り、酢酸エチル100mlを加えて溶かした液は、赤色の蛍光を発する。
- (3) 本品にヘキサンを加えて溶かした液は、波長410～430nm及び660～670nmの両者に極大吸収部がある。
- (4) 本品の表示量から、色価600に換算して1gに相当する量を取り、ヘキサン30mlを加えて溶かし、検液とする。検液2 μ lを量り、対照液を用いず、ヘキサン/アセトン/*tert*-ブタノール混液(10:1:1)を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーを行うとき、展開溶媒の先端が原線より約10cmの高さに上昇したとき展開をやめ、風乾するとき、Rf値が0.3付近、0.4付近及び0.65付近に黄緑色(クロロフィルb)、緑色(クロロフィルa)及び灰色(フェオフィチン)のスポットを認め、これらのスポットは、暗所で紫外線(波長366nm付近)を照射するとき、赤色の蛍光を発する。また、Rf値が0.25及び0.95付近に黄色(キサントフィル)及び黄だいたい色(β -カロテン)のスポットを認め、これらのスポットは、暗所で紫外線(波長366nm付近)を照射するとき、蛍光を発しない。ただし、薄層板には、担体として薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを110℃で1時間乾燥したものを使用する。~~展開溶媒の先端が原線より約10cmの高さに上昇したとき展開をやめ、風乾した後、観察する。~~

純度試験 (1) 重金属 Pbとして40 μ g/g以下(0.50g, 第2法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(2) 鉛 Pbとして10 μ g/g以下(1.0g, 第1法)

(3) ヒ素 As₂O₃として4.0 μ g/g以下(0.50g, 第3法, 装置B)

色価測定法 色価測定法により次の操作条件で試験を行う。

操作条件

測定溶媒 ヘキサン

測定波長 波長660～670nmの極大吸収部

ケイソウ土

Diatomaceous Earth

定義 本品は、ケイソウに由来する二酸化ケイ素で、乾燥品、焼成品及び融剤焼成品があり、それぞれをケイソウ土(乾燥品)、ケイソウ土(焼成品)及びケイソウ土(融剤焼成品)と称する。

焼成品は、800～1,200℃で焼成したものであり、融剤焼成品は、少量の炭酸のアル

カリ塩を添加して800~1,200℃で焼成したものである。融剤焼成品のうち酸洗い品については、焼成品の規定（性状を除く）を準用する。

性状 乾燥品は、類白~~色又は~~淡灰色の粉末であり、焼成品は、淡黄~~色~~～淡だいたい色又は紅～淡褐色の粉末であり、融剤焼成品は、白~~色又は~~淡赤褐色の粉末である。

確認試験 (1) 本品0.2gを白金製のろつばに採りとり、フッ化水素酸5mlを加えて溶かし、次に加熱するとき、ほとんどが蒸発する。

(2) 本品を100~200倍の顕微鏡で観察するとき、特有な多孔質のケイソウ骨格を認める。

純度試験 (1) 液性 乾燥品及び焼成品 pH5.0~10.0 融剤焼成品 pH8.0~11.0

本品を乾燥し、その10.0gを量り、水100mlを加え、かくはん機を用いてかき混ぜながら、更に蒸発する水を補いながら、2時間穏やかに煮沸する。冷後、直径47mmのメンブランフィルター（孔径0.45 μ m）を装着したフィルターホルダーを用いて吸引ろ過する。ろ液が濁っている場合は、同一フィルターで吸引ろ過を繰り返す。容器及びフィルター上の残留物は、水で洗い、洗液をろ液に合わせ、更に水を加えて100mlとし、A液とする。A液につき測定する。

(2) 水可溶物 0.50%以下

(1)のA液50mlを量り、蒸発乾固し、残留物を105℃で2時間乾燥し、その重量を量る。

(3) 塩酸可溶物 2.5%以下

本品を乾燥し、その2.0gを量り、塩酸（1→4）50mlを加え、時々振り混ぜながら50℃で15分間加温する。冷後、ろ過し、容器及びろ紙上の残留物を塩酸（1→4）3mlで洗い、洗液とろ液を合わせる。この液に硫酸（1→20）5mlを加えて蒸発乾固し、更に恒量になるまで450~550℃で強熱し、残留物の重量を量る。

(4) 重金属 Pbとして50 μ g/g以下

本品2.0gを量り、塩酸（1→4）50mlを加え、時計皿で覆い、かくはんしながら70℃で15分間加温する。冷後、上澄液を定量分析用ろ紙（5種C）を用いてろ過する。容器内の残留物は温湯10mlずつを用いて3回洗い、先のろ紙を用いてろ過した後、ろ紙及びろ紙上の残留物を水15mlで洗う。ろ液及び洗液を合わせ、水を加えて100mlとし、B液とする。B液20mlを量り、水浴上で蒸発乾固した後、酢酸（1→20）2ml及び水20mlを加えて溶かし、必要があればろ過し、更に水を加えて50mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液2mlを正確に量り、酢酸（1→20）2ml及び水を加えて50mlとする。

(5) 鉛 Pbとして10 μ g/g以下

(4)のB液25mlを量り、水浴上で蒸発乾固した後、塩酸（1→10）を加えて溶かして10mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液1.0mlに塩酸（1→10）を加えて20mlとする。検液及び比較液につき、鉛試験法第1法により試験を行う。

(6) ヒ素 As₂O₃として10 μ g/g以下

(4)のB液10mlを量り、検液とする。装置Bを用いる。

乾燥減量 乾燥品 10.0%以下 (105°C, 2時間)

焼成品及び融剤焼成品 3.0%以下 (105°C, 2時間)

強熱減量 本品を105°Cで2時間乾燥した後、これを試料とし、直ちに試験を行う。

乾燥品 7.0%以下 (1,000°C, 30分間)

焼成品及び融剤焼成品 2.0%以下 (1,000°C, 30分間)

フッ化水素酸残留物 25.0%以下

あらかじめ白金製のるつぼを1,000°Cで30分間強熱し、デシケーター中で放冷した後、~~重量質量~~を精密に量る。本品約0.2gを精密に量り、先の白金製のるつぼに入れ、~~重量質量~~を精密に量る。次にフッ化水素酸5ml及び硫酸(1→2)2滴を加え、水浴上でほとんど蒸発乾固し、冷後、残留物にフッ化水素酸5mlを加え、蒸発乾固した後、550°Cで1時間加熱し、更に徐々に温度を上げ、1,000°Cで30分間強熱し、デシケーター中で放冷した後、~~重量質量~~を精密に量る。

ケイ皮酸

Cinnamic Acid

$C_9H_8O_2$

分子量 148.16

~~(2E)-3-Phenylprop-2-enoic acid [140-10-3] cinnamic acid (621-62-2)~~

含量 本品を乾燥したものは、ケイ皮酸($C_9H_8O_2$)99.0%以上を含む。

性状 本品は、白色の結晶性の粉末で、特有のにおいがある。

確認試験 (1) 本品0.5gに硫酸1mlを加え、水浴中で加熱して溶かした液は、黄緑色となり、加熱を続けるとき、暗赤色に変わる。

(2) 本品0.1gに水酸化カリウム溶液(1→15)2mlを加えて溶かし、過マンガン酸カリウム溶液(1→300)5mlを加えて温湯中で加温するとき、ベンズアルデヒドのにおいを発する。

純度試験 (1) 融点 132~135°C

(2) 溶状 澄明 (1.0g, エタノール ~~7~~7.0ml)

澄明 (0.20g, 無水炭酸ナトリウム溶液(1→8) ~~2~~2.0ml及び水 ~~3~~3.0ml)

(3) 重金属 Pbとして10 μ g/g以下

本品2.0gを量り、酢酸(1→20)2ml及びエタノールを加えて50mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液2mlを正確に量り、酢酸(1→20)2ml及びエタノールを加えて50mlとする。

(4) ヒ素 As_2O_3 として4.0 μ g/g以下 (0.50g, 第4法, 装置B)

(5) ハロゲン化合物 ~~香料試験法による~~ (香料試験法)

乾燥減量 1.0%以下 (4時間)

強熱残分 0.05%以下

定量法 本品を乾燥し、その約0.2gを精密に量り、中和エタノール10ml及び水10mlを加えて溶かし、0.1mol/l水酸化ナトリウム溶液で滴定する (指示薬 フェノールフタレイン試液3滴)。

0.1mol/l水酸化ナトリウム溶液 1 ml = 14.816mg ~~82mg~~ C₉H₈O₂

ケイ皮酸エチル

Ethyl Cinnamate

C₁₁H₁₂O₂

分子量 176.2221

~~Ethyl 3-phenylprop-2-enoate ethyl 2-phenyl-2-propenoate~~ [103-36-6]

含量 本品は、ケイ皮酸エチル (C₁₁H₁₂O₂) 99.0%以上を含む。

性状 本品は、無～淡黄色の液体で、特有のにおいがある。

確認試験 本品 1 ml にエタノール製10%水酸化カリウム試液10mlを加え、水浴中で加熱するとき、本品は溶け、白色の沈殿を生じ、特有のにおいはなくなる。温時、水10mlを加えるとき、この沈殿は溶ける。この液を硫酸 (1→20) で酸性とするとき、白色の結晶性の沈殿を生じる。

純度試験 (1) 屈折率 n_D^{20} = 1.559～1.561

(2) 比重 1.049～1.052

(3) 溶状 澄明 (1.0ml, 70vol%エタノール ~~5-5.0ml~~)

(4) 酸価 1.0以下 (香料試験法)

定量法 本品約1gを精密に量り、香料試験法中のエステル含量により定量する。ただし、加熱前に水5mlを加える。

0.5mol/lエタノール製水酸化カリウム溶液 1 ml = 88.11mg C₁₁H₁₂O₂

ケイ皮酸メチル

Methyl Cinnamate

C₁₀H₁₀O₂

分子量 162.19

~~Methyl 3-phenylprop-2-enoate methyl 2-phenyl-2-propenoate~~ [103-26-4]

含量 本品は、ケイ皮酸メチル (C₁₀H₁₀O₂) 98.0%以上を含む。

性状 本品は、白色の固体で、まつたけようのにおいがある。

確認試験 本品 1g にエタノール製10%水酸化カリウム試液10mlを加え、水浴中で加熱

するとき、本品は溶け、白色の沈殿を生じ、まつたけようのにおいはなくなる。温時、10mlを加えるとき、この沈殿は溶ける。この液を硫酸（1→20）で酸性とするとき、白色の結晶性の沈殿を生じる。

純度試験 (1) 凝固点 33.8℃以上

(2) 溶状 ほとんど澄明

本品1.0gを量り、70vol%エタノール3.0mlを加え、40℃に加温して溶かし、検液とする。

(3) 酸価 1.0以下（香料試験法）

定量法 本品約0.9gを精密に量り、香料試験法中のエステル含量により定量する。ただし、加熱前に水5mlを加える。

0.5mol/Lエタノール製水酸化カリウム溶液1ml=81.09mg C₁₀H₁₈O₂

ゲラニオール

Geraniol

C₁₀H₁₈O

分子量 154.25

(2E)-3,7-dimethyl-2,6-dien-1-ol (E)-3,7-dimethyl-2,6-octadien-1-ol

106-24-1

含量 本品は、ゲラニオール（C₁₀H₁₈O）85.0%以上を含む。

性状 本品は、無～淡黄色の透明な液体で、特有のにおいがある。

確認試験 本品1mlに無水酢酸1ml及びリン酸1滴を加えて10分間微温に保った後、水1mlを加え、温湯中で5分間振り混ぜる。冷後、無水炭酸ナトリウム溶液（1→8）で微アルカリ性とするとき、酢酸ゲラニルのにおいを発する。

純度試験 (1) 屈折率 n_D^{20} = 1.469～1.478

(2) 比重 0.870～0.885

(3) 溶状 澄明（1.0ml、70vol%エタノール3.0ml）

(4) 酸価 1.0以下（香料試験法）

(5) エステル価 3.0以下（5.0g、香料試験法）

(6) アルデヒド類 本品約5gを精密に量り、香料試験法中のアルデヒド類又はケトン類含量の第2法により定量するとき、0.5mol/L塩酸の消費量は、0.65ml以下である。ただし、放置時間は、15分間とする。

定量法 本品は、香料試験法中のアルコール類含量の第1法により定量する。ただし、アセチル化油約1gを用いる。

合成膨脹剤

Baking Powder

一劑式合成膨脹剤

性 状 本品は、白～灰白色の粉末又は粉末の集まった崩れやすい塊である。

純度試験 (1) 硝酸不溶物 2.0%以下

本品5.0gを量り、水30mlを加え、3分間振り混ぜた後、不溶物をろ過し、~~よく水洗する。二酸化炭素を十分に吹き込んだ水でよく洗う。~~次に、ろ紙の底に穴をあけ、不溶物を硝酸(1→10)40mlでビーカーに流し込み、1分間煮沸する。冷後、~~あらかじめ恒量になるまで約550℃で強熱して冷後重量を精密に量ったガラス製の~~ろ過し、~~洗液が酸性を呈さなくなるまで水洗する。不溶物をガラス製のろ過器とともに乾燥した後、~~定量用ろ紙(5種B)でろ過し、洗液が酸性を呈さなくなるまで水で洗い、残留物をろ紙とともに質量を精密に量った磁製のろ過器に入れ、恒量になるまで約550℃で強熱し、その重量を量る。

(2) 液性 pH5.0～8.5

本品1.0gを量り、水50mlを加え、水浴中で泡立たなくなるまで加熱し、冷却した液について測定する。

(3) 重金属 本品の少量を量り、加熱し、炭化するときは(i)により、炭化しないときは(ii)により試験を行う。

(i) Pbとして40 μ g/g以下(0.5g, 第2法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(ii) Pbとして40 μ g/g以下

本品2.0gを量り、硝酸5mlを加え、水浴上で15分間加熱し、冷後、水5mlを加え、ろ過し、ろ紙上の残留物を水5mlで洗い、洗液をろ液に合わせる。この液にフェノールフタレイン試液2滴を加え、液がわずかに紅色を呈するまで水酸化ナトリウム溶液(1→10)を加えた後、塩酸(1→4)5mlを加える。次にアンモニア試液でpHを2.5～3.5とした後、酢酸(1→20)8ml及び水を加えて100mlとし、この液25mlを量り、水を加えて50mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液2mlを正確に量り、酢酸(1→20)2ml及び水を加えて50mlとする。

(4) ヒ素 本品の少量を量り、加熱し、炭化するときは(i)により、炭化しないときは(ii)により試験を行う。

(i) As₂O₃として4.0 μ g/g以下(0.50g, 第3法, 装置B)

(ii) As₂O₃として4.0 μ g/g以下

本品5.0gを量り、100mlのフラスコに入れ、水10mlを加え、泡立たなくなるまで加熱した後、塩酸(1→4)又は水酸化ナトリウム溶液(1→25)で中和する。次に塩酸5mlを加え、水浴中で30分間加熱し、冷後、水を加えて25mlとする。こ

の液 5 mlを量り、亜硫酸10mlを加え、約 2 mlになるまで蒸発濃縮した後、水を加えて10mlとし、この液 5 mlを量り、検液とする。装置 Bを用いる。ただし、アンモニア水又はアンモニア試液で中和するときは、液のpHをpH2.5～3.5に調整する。

(5) ガス発生量 発生ガスの測定を行うとき、その量は、70ml以上である。

二剤式合成膨脹剤

使用時の混合割合に混和した本品につき、「一剤式合成膨脹剤」の規定を準用する。

アンモニア系合成膨脹剤

「一剤式合成膨脹剤」の規定を準用する。ただし、純度試験(2)のpH液性は、pH6.0～9.0とし、純度試験(5)のガス発生量の測定には置換溶液として水を用いて行う。

高度サラシ粉

High-Test Hypochlorite

含 量 本品は、有効塩素60.0%以上を含む。

性 状 本品は、白～類白色の粉末又は粒で、塩素のにおいがある。

確認試験 (1) 本品0.5gに水 5 mlを加えて振り混ぜ、これに赤色リトマス紙を浸すとき、リトマス紙は青変し、次に退色する。

(2) 本品0.1gに酢酸(1→4) 2 mlを加えるとき、ガスを発生して溶ける。これに水 5 mlを加えてろ過した液は、カルシウム塩の反応を呈する。

定 量 法 本品の有効塩素として0.7～1.3gに対応する量を精密に量り、水約50mlと乳鉢中でよくすり混ぜた後、水を加えて正確に500ml とする。次によく振り混ぜ、その50mlを正確に量り、ヨウ化カリウム 2 g及び酢酸(1→2) 10mlを加え、直ちに密栓して暗所に15分間放置し、遊離したヨウ素を0.1mol/lチオ硫酸ナトリウム溶液で滴定する(指示薬 デンプン試液)。別に空試験を行い補正する。

0.1mol/lチオ硫酸ナトリウム溶液 1 ml = 3.545 mg Cl

コチニール色素
Cochineal Extract
Carminic Acid
カルミン酸色素

定 義 本品は、エンジムシ (*Coccus cacti* Linné又は*Dactylopius coccus* Costa) から得られた、カルミン酸を主成分とするものである。

色 価 本品の色価 (E_{1%}^{1%})は80以上で、表示量の 95～115%を含む。

性 状 本品は赤～暗赤色の粉末、塊、液体又はペースト状の物質で、わずかに特異なにおいがある。

確認試験 (1) 本品の表示量から、色価80に換算して0.5gに相当する量を取り、0.1mol/l塩酸1,000mlを加えて溶かし、遠心分離して得られる上澄液は、だいたい色を呈し、490～497nmに極大吸収部がある。

(2) 本品の表示量から、色価80に換算して1gに相当する量を取り、水100mlを加えて振り混ぜた液はだいたい赤～暗赤褐色を呈し、この液に水酸化ナトリウム溶液(1→25)溶液を加えてアルカリ性にするとき、紫～紫赤色を呈する。

純度試験 (1) 重金属 Pbとして40 μg/g以下(0.50g, 第2法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(2) 鉛 Pbとして10 μg/g以下(1.0g, 第1法)

(3) ヒ素 As₂O₃として 4.0 μg/g以下(0.50g, 第3法, 装置B)

(4) たん白質 2.2%以下

本品約0.1gを精密に量り、窒素定量法中のセミマイクロケルダール法により試験を行う。

0.005mol/l硫酸1ml=0.8754mg たん白質

色価測定法 色価測定法により次の操作条件で試験を行う。

操作条件

測定溶媒 0.1mol/l塩酸

測定波長 波長490～497nmの極大吸収部

コハク酸
Succinic Acid

C₄H₆O₄

分子量 118.09

Butane-1,4-dioic acid 4,4-butandioic acid ([110-15-6])

含 量 本品は、コハク酸 (C₄H₆O₄) 99.0%以上を含む。

性 状 本品は、無～白色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においがなく、特異な

酸味がある。

確認試験 本品の水溶液（1→20）5 mlにアンモニア試液を加えてpH~~を~~約7とし、~~塩化~~
~~第二鉄塩化鉄（Ⅲ）~~溶液（1→10）2～3滴を加えるとき、褐色の沈殿を生じる。

純度試験 (1) 融点 185～190℃

(2) 重金属 Pbとして20 μg/g以下

本品1.0gを量り、水20mlを加えて溶かし、フェノールフタレイン試液1滴を加え、液がわずかに紅色を呈するまでアンモニア試液を滴加した後、酢酸（1→20）2 mlを加え、水を加えて50mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液2 mlを正確に量り、酢酸（1→20）2 ml及び水を加えて50mlとする。

(3) ヒ素 As₂O₃として4.0 μg/g以下（0.50g, 第1法, 装置B）

(4) 易酸化物 本品1.0gを量り、水25ml及び硫酸（1→20）25mlを加えて溶かし、0.02 mol/l~~の~~過マンガン酸カリウム溶液4.0mlを加えるとき、液の紅色は3分以内に消えない。

強熱残分 0.025%以下（5g）

定量法 本品約1gを精密に量り、水を加えて溶かして正確に250mlとする。この液25 mlを正確に量り、0.1mol/l~~の~~水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬 フェノールフタレイン試液2～3滴）。

0.1mol/l~~の~~水酸化ナトリウム溶液1 ml=5.904mg C₄H₆O₄

コハク酸一ナトリウム

Monosodium Succinate

C₄H₅NaO₄

分子量 140.07

~~Monosodium monohydrogen butane-1,4-dioate~~

~~Hy 4-butane dioate~~ [2922-54-5]

含量 本品は、コハク酸一ナトリウム（C₄H₅NaO₄）98.0～102.0%を含む。

性状 本品は、無～白色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においがなく、特異な味がある。

確認試験 本品は、ナトリウム塩の反応及びコハク酸塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 液性 pH4.3～5.3（1.0g, 水20ml）

(2) 硫酸塩 SO₄として0.019%以下（1.0g, 比較液 0.005mol/l~~の~~硫酸0.40ml）

(3) 重金属 Pbとして20 μg/g以下

本品1.0gを量り、水20mlを加えて溶かし、フェノールフタレイン試液1滴を加え、液がわずかに紅色を呈するまでアンモニア試液を滴加した後、酢酸（1→20）2 mlを加え、水を加えて50mlとし、検液とする。比較液は、鉛標準液2 mlを正確に量り、

酢酸（1→20）2 ml及び水を加えて50mlとする。

(4) ヒ素 As_2O_3 として4.0 μ g/g以下（0.50g, 第1法, 装置B）

(5) 易酸化物 本品2.0gを量り, 水25ml及び硫酸（1→20）25mlを加えて溶かし, 0.02 mol/l過マンガン酸カリウム溶液4.0mlを加えるとき, 液の紅色は3分以内に消えない。

強熱残分 49.5～51.5%

定量法 本品約0.3gを精密に量り, 水30mlを加えて溶かし, 0.1mol/l水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬 フェノールフタレイン試液2滴）。

0.1mol/l水酸化ナトリウム溶液 1 ml = 14.007mg $C_4H_5NaO_4$

コハク酸二ナトリウム

Disodium Succinate

分子量 6水塩水和物 270.14

$C_4H_4Na_2O_4 \cdot nH_2O$ (n = 6 又は 0)

無水物 162.05

Disodium butane-1,4-dioate hexahydrate

Disodium butane-1,4-dioate [150-90-3, 無水物]

~~Disodium butane-1,4-dioate [無水物] 150-90-3~~

定義 本品には結晶物（6水塩水和物）及び無水物があり, それぞれをコハク酸二ナトリウム（結晶）及びコハク酸二ナトリウム（無水）と称する。

含量 本品を乾燥したものは, コハク酸二ナトリウム ($C_4H_4Na_2O_4$) 98.0～101.0%を含む。

性状 本品は, 無～白色の結晶又は白色の粉末で, においがなく, 特異な味がある。

確認試験 本品は, ナトリウム塩の反応及びコハク酸塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 液性 pH7.0～9.0 (1.0g, 水20ml)

(2) 硫酸塩 SO_4 として0.019%以下

本品1.0gを量り, 水30mlを加えて溶かし, 塩酸（1→40）で中和し, 試料液とする。比較液には0.005mol/l硫酸0.40mlを用いる。

(3) 重金属 Pbとして20 μ g/g 以下

本品1.0gを量り, 水20mlを加えて溶かし, 塩酸（1→40）で中和した後, 酢酸（1→20）2 mlを加え, 水を加えて50mlとし, 検液とする。比較液は, 鉛標準液2 mlを正確に量り, 酢酸（1→20）2 ml及び水を加えて50mlとする。

(4) ヒ素 As_2O_3 として4.0 μ g/g 以下（0.50g, 第1法, 装置B）

(5) 易酸化物 本品2.0gを量り, 水20ml及び硫酸（1→20）30mlを加えて溶かし, 0.02 mol/l過マンガン酸カリウム溶液4.0mlを加えるとき, 液の紅色は3分以内に消え

ない。

乾燥減量 結晶物 37.0～41.0% (120℃, 2時間)

無水物 2.0%以下 (120℃, 2時間)

定量法 本品を乾燥し, その約0.15gを精密に量り, 非水滴定用酢酸30mlを加えて溶かし, 0.1mol/L過塩素酸液で滴定する (指示薬 クリスタルバイオレット・酢酸試液 1 ml)。終点は, 液の紫色が青色を経て緑色になるときとする。別に空試験を行い補正する。

0.1mol/L過塩素酸液 1 ml = 8.103mg C₄H₄Na₂O₄

コレカルシフェロール

Cholecalciferol

ビタミン D₃

C₂₇H₄₄O

分子量 384.6564

(3S,5Z,7E)-9,10-Secocholesta-5,7,10(19)-trien-3-ol (26,5,7,7,5)-9,10,10,10-tetrahydro-7,10(19)-cycloheptatriene-3-ol [67-97-0]

性状 本品は, 白色の結晶で, においが無い。

確認試験 (1)「エルゴカルシフェロール」の確認試験(1)を準用する。

(2)「エルゴカルシフェロール」の確認試験(2)を準用する。ただし, その融点は, 133～135℃である。

純度試験 (1) 比吸光度 E_{1%}^{1cm} (265nm) = 450～490

本品約0.1gを精密に量り, エタノールを加えて溶かして正確に200mlとする。この液 2 mlを正確に量り, エタノールを加えて正確に100mlとし, 吸光度を測定する。

(2) 比旋光度 $[\alpha]_D^{20} = +103.0 \sim +112.0^\circ$ (0.1g, エタノール, 20ml)

(3) 融点 84～88℃

(4) 7-デヒドロコレステロール 本品40mg(0.010g)を量り, 90vol%エタノール 2 mlを加えて溶かし, あらかじめジギトニン20mg(0.020g)を量り, 90vol%エタノール 2 mlを加えて溶かした液を加えて18時間放置するとき, 沈殿を生じない。

保存基準 遮光した密封容器に入れ, 空気を不活性ガスで置換し, 冷所に保存する。

コンドロイチン硫酸ナトリウム

Sodium Chondroitin Sulfate

含 量 本品を乾燥したものは、窒素 (N=14.01) 2.5~3.8%及び硫黄 (S=32.07) 5.5~7.0%を含む。

性 状 本品は、白~類白色の粉末である。

確認試験 (1) 本品の水溶液 (1→100) 5 mlに塩酸アクリフラビン溶液 (1→200) 1 mlを加えるとき、黄褐色の沈殿を生じる。

(2) 本品の水溶液 (1→100) 5 mlに塩酸 1 mlを加え、水浴中で10分間加熱し、冷後、塩化バリウム溶液 (3→25) 1 mlを加えるとき、白色の沈殿を生じる。

(3) 本品の強熱残分は、ナトリウム塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 溶状 ほとんど澄明

本品0.10gを量り、水20mlを加え、よく振り混ぜて溶かし、検液とする。

(2) 液性 pH5.5~7.5 (1.0g, 水100ml)

(3) 塩化物 Clとして0.14%以下

本品~~50mg~~0.050gを量り、水10mlを加えて溶かし、エタノール15ml及び硝酸 (1→10) 6 mlを加えて振り混ぜた後ろ過する。残留物は、50vol%エタノールで洗い、洗液をろ液に合わせ、更に50vol%エタノールを加えて50mlとし、検液とする。比較液は、0.01mol/l塩酸0.20mlに硝酸 (1→10) 6 ml及び50vol%エタノールを加えて50mlとする。

(4) 無機硫酸塩 SO₄として0.24%以下

本品0.10gを量り、水15ml~~を加えて~~に溶かし、塩酸 1 mlを加えてよく振り混ぜる。次に塩化アルミニウム溶液 (1→5) 2 mlを加えてよく振り混ぜ、更にアンモニア試液 5 mlを少量ずつ振り混ぜながら加えた後、遠心分離する。上澄液を採りとり、残留物に水 5 mlを加えて振り混ぜ、遠心分離し、洗液を先の上澄液に合わせる。更に水 5 mlを用いて同様の操作を行い、洗液を上澄液に合わせ、塩酸 (1→4) を加えて中和し、試料液とする。比較液には0.005mol/l硫酸0.50mlを用いる。硫酸塩試験法により試験を行う。

(5) 重金属 Pbとして40 μg/g 以下 (乾燥後0.50g, 第2法, 比較液 鉛標準液2.0ml)

(8) ヒ素 As₂O₃として4.0 μg/g 以下 (0.50g, 第3法, 装置B)

乾燥減量 10.0%以下 (105℃, 4時間)

強熱残分 23.0~31.0% (乾燥物)

定量法 (1) 窒素 本品を乾燥し、その約1gを精密に量り、試料とし、窒素定量法中のケルダール法により定量する。

0.05mol/l硫酸 1 ml = 1.4007mg 101μg N

(2) 硫黄 本品を乾燥し、その約0.5gを精密に量り、分解フラスコに入れ、水30mlを加えて溶かした後、塩素酸カリウム5gを加え、更に硝酸30mlを少量ずつ加え、液が約5mlになるまで加熱する。冷後、塩酸25mlを用いて定量的にビーカーに移し、約5mlになるまで水浴上で濃縮する。この液に水100mlを加え、アンモニア試液で中和し、塩酸(1→10)5mlを加え、煮沸しながら塩化バリウム溶液(3→25)5mlを加える。次にビーカーを時計皿で覆い、水を補給しながら水浴上で2時間加熱する。冷後、定量分析用ろ紙(5種C)を用いてろ過し、ビーカー及びろ紙上の残留物は、洗液が塩化物の反応を呈さなくなるまで温湯で洗い、残留物をろ紙とともに乾燥した後、恒量となるまで450~550℃で強熱し、その重量質量を精密に量り、次式により含量を求める。

$$\text{硫黄 (S) の含量} = \frac{\text{残留物の重量質量 (g)} \times 0.137439}{\text{試料の採取量 (g)}} \times 100 (\%)$$

酢 酸

Acetic Acid

含 量 本品は、酢酸 ($C_2H_4O_2 = 60.05$) 29.0~31.0%を含む。

性 状 本品は、無色澄明の液体で、特異な刺激性のにおい~~及び酸味~~がある。

確認試験 (1) 本品は、酸性である。

(2) 本品は、酢酸塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 重金属 Pbとして $10 \mu\text{g/g}$ 以下 (3.0g, 第1法, 比較液 鉛標準液3.0ml)

(2) ヒ素 As_2O_3 として $4.0 \mu\text{g/g}$ 以下 (0.50g, 第1法, 装置B)

(3) 易酸化物 本品20mlを量り、 0.02mol/L 過マンガン酸カリウム溶液0.30mlを加えるとき、液の紅色は30分以内に消えない。

(4) 蒸発残留物 0.010%以下

本品20.0gを量り、蒸発した後、 100°C で2時間乾燥し、その残留物の重量質量を量る。

定量法 本品約3gを精密に量り、水15mlを加え、 1mol/L 水酸化ナトリウム溶液で滴定する (指示薬 フェノールフタレイン試液2滴)。

1mol/L 水酸化ナトリウム溶液 1ml = 60.05mg $C_2H_4O_2$

酢酸イソアミル
Isoamyl Acetate

$C_7H_{14}O_2$

分子量 130.4015

~~3-Methylbutyl acetate [123-92-2]~~

含 量 本品は、酢酸イソアミル ($C_7H_{14}O_2$) 98.0%以上を含む。

性 状 本品は、無色透明な液体で、バナナようのにおいがある。

確認試験 本品 1 ml にエタノール製 10% 水酸化カリウム試液 5 ml を加え、水浴中で振り混ぜながら加熱するとき、バナナようのにおいはなくなり、~~イソアミルブチルアセテート~~
3-メチル-1-ブタノールのにおいを発する。冷後、水 10 ml 及び塩酸 (1 → 4) 0.5 ml を加えた液は、酢酸塩 (3) の反応を呈する。

純度試験 (1) 屈折率 $n_D^{20} = 1.398 \sim 1.404$

(2) 比重 0.872 ~ 0.878

(3) 溶状 澄明 (2.0 ml, 70 vol% エタノール 4.0 ml)

(4) 酸価 1.0 以下 (香料試験法)

定 量 法 本品約 0.5 g を精密に量り、香料試験法中のエステル含量により定量する。
0.5 mol / ~~1~~ エタノール製水酸化カリウム溶液 1 ml = 65.09 mg $C_7H_{14}O_2$

酢酸エチル
Ethyl Acetate

$C_4H_8O_2$

分子量 88.11

~~Ethyl acetate [141-78-6]~~

含 量 本品は、酢酸エチル ($C_4H_8O_2$) 98.0%以上を含む。

性 状 本品は、無色透明な液体で、果実ようのにおいがある。

確認試験 (1) 本品 1 ml に水酸化ナトリウム溶液 (1 → 25) 25 ml を加え、水浴中で 5 分間加熱する。冷後、塩酸 (1 → 4) で中和し、~~塩化第二鉄~~ 塩化鉄 (III) 溶液 (1 → 10) 5 滴を加えるとき、液は、深赤色を呈する。

(2) 本品 1 ml に水酸化ナトリウム溶液 (1 → 5) 5 ml を加え、水浴中で振り混ぜながら加熱するとき、果実ようのにおいはなくなる。この液を硫酸 (1 → 20) で酸性とし、水浴中で振り混ぜながら加熱するとき、酢酸のにおいを発する。

純度試験 (1) 屈折率 $n_D^{20} = 1.370 \sim 1.375$

(2) 比重 0.900 ~ 0.904

(3) 酸価 0.1 以下

本品 20 g を量り、香料試験法中の酸価の試験を行う。

定量法 あらかじめ100ml のフラスコにエタノール10mlを入れて重量質量を精密に量る。次に本品約1gを先のフラスコに入れて重量質量を精密に量り、0.5mol/Lエタノール製水酸化カリウム溶液40mlを正確に量って加え、還流冷却器を付けて78～82℃の水浴中で20分間加熱する。冷後、過量のアルカリを0.5mol/L塩酸で滴定する（指示薬 フェノールフタレイン試液2～3滴）。別に空試験を行う。

0.5 mol/Lエタノール製水酸化カリウム溶液 1 ml = 44.05mg $C_4H_8O_2$